

令和5年度 第3回枚方市スポーツ推進審議会 資料（抜粋）

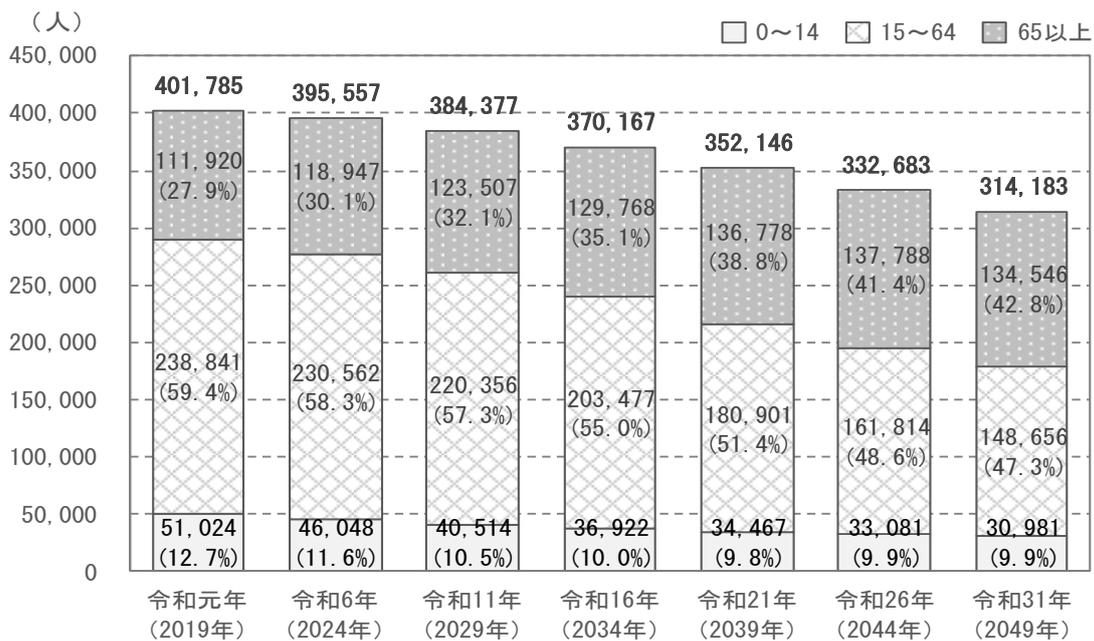
【現行計画からの変更点】
・本市における人口推計を追記

1. 枚方市におけるスポーツの現状

■枚方市の人口と高齢化の状況

本市の人口は、平成21年をピークに微減傾向が続いてきましたが、令和2年に40万人を割り込み、令和5年10月1日時点では394,890人となるなど、減少傾向にあり、この傾向はさらに続くものと推測されています。

また、年齢階層別では、0から14歳と15～64歳の人口が、減り続ける一方で、65歳以上の人口は増加傾向にあり、少子高齢化はさらに進むことが予測されています。



資料：枚方市人口推計調査（令和2年2月策定）

【現行計画からの変更点】

・平成 28 年度のアンケート調査結果を、
令和 4 年度のアンケート調査結果に修正

(1) 市民のスポーツに関する意識と行動

市民の運動・スポーツ活動に関する現状や意識などを調査することを目的に実施した「令和4年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」（以下「R4市民アンケート」という。）の結果を分析したところ、市民のスポーツに関する意識と行動の概要は次のとおりです。

◆ R4市民アンケート調査実施概要

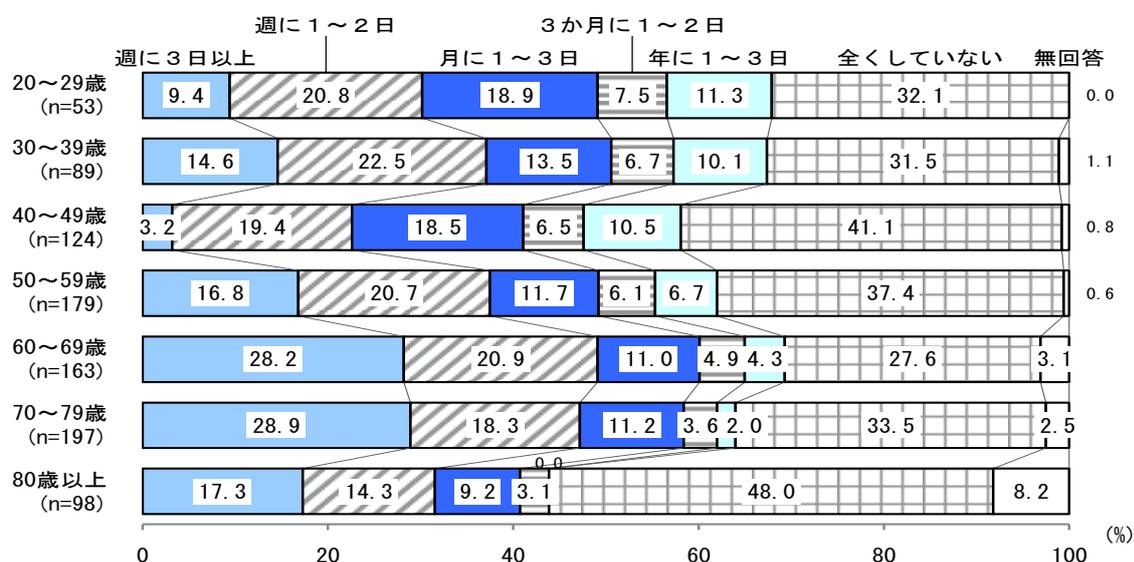
調査対象	枚方市内在住の満 18 歳以上の男女個人 2,000 人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	郵送調査及びオンライン調査
調査期間	令和4年9月26日（月）～10月11日（火）
回収率	46.4%(928件)

I 成人のスポーツ活動

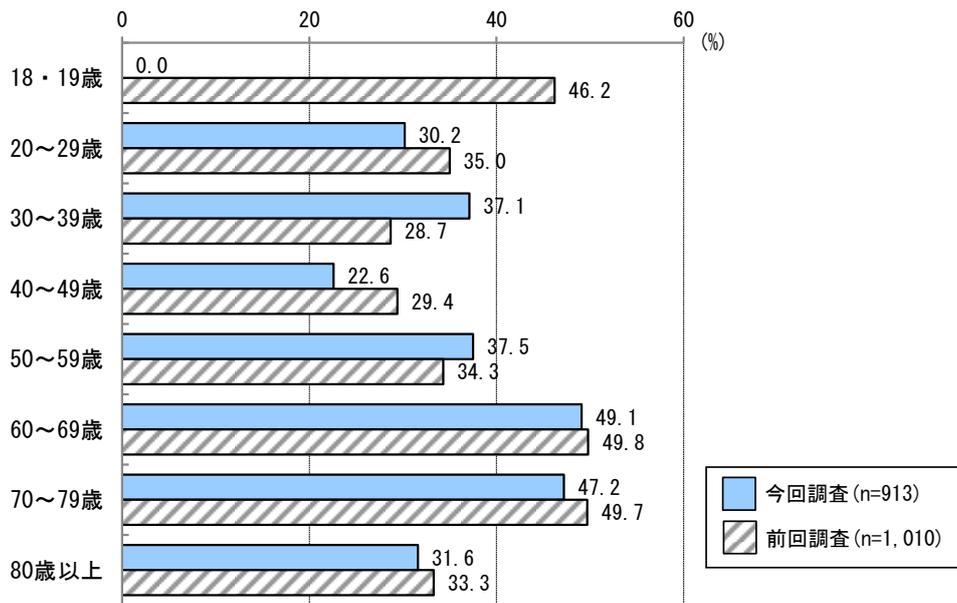
スポーツを週に1日以上行っている市民は、40歳代が22.6%と特に低くなっています。（図 1-1）図 1-2 の「平成 28 年度枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」（以下、「前回調査」という。）と比較すると、30歳代が28.7%から37.1%、50歳代が34.3%から37.5%と改善が見られます（図 1-1、図 1-2）。

また、スポーツ実施率が低い40歳代で、運動を始めたきっかけは、「家族や友人、近所の人に誘われて」が33.3%と高く、実施率が次に低い80歳以上でも30.0%となっています（図 1-3）。

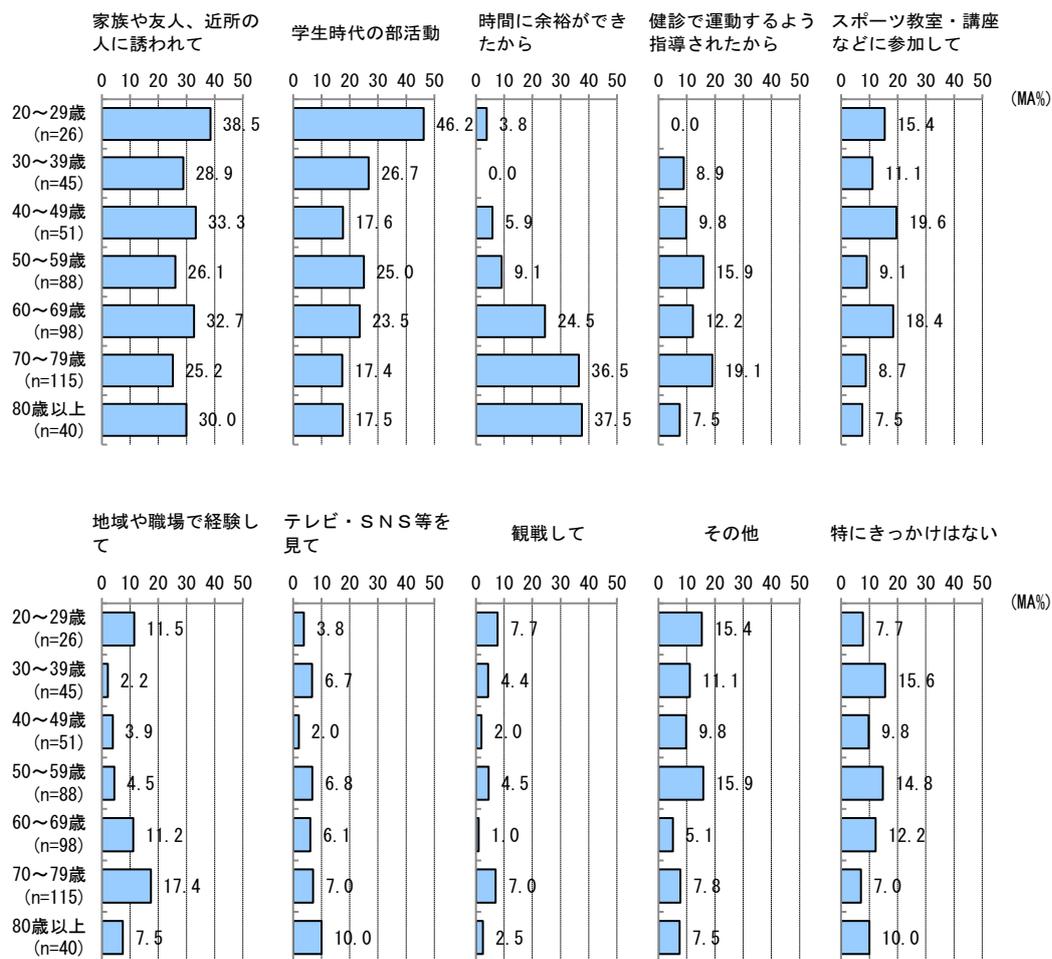
◆ 図 1-1 スポーツの実施頻度(年代別)



◆ 図 1-2 週1日以上のスポーツの実施頻度



◆ 図 1-3 運動を始めたきっかけ(年代別)

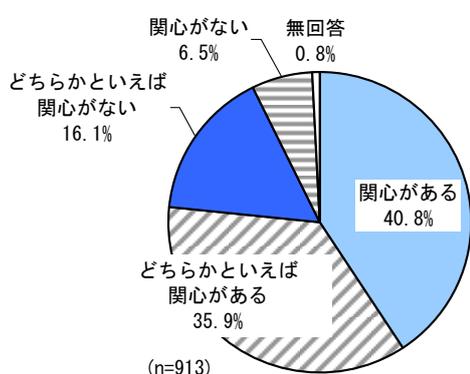


①スポーツに対する関心度

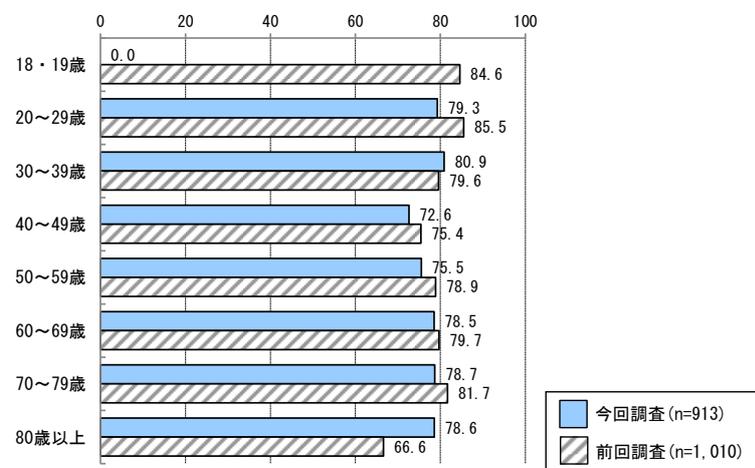
スポーツに対する関心度は、全体では 76.7%で、どの世代においても 70%以上を占めています（図 1-4）。前回調査に比べ、80 歳以上の関心度が 66.6%から 78.6%に上昇しましたが、一方で、30 歳代を除く各年代においては、やや低下している状況です（図 1-5）。

運動やスポーツを始めようと思えるきっかけとしては、「友人・家族の誘い」が 20 歳代で 63.0%、30 歳代で 55.8%、40 歳代で 55.6%と高く、60 歳代では「興味のあるスポーツ教室の開催」が 36.7%、70 歳代では「医師からの指導」が 22.1%となりました（図 1-6）。

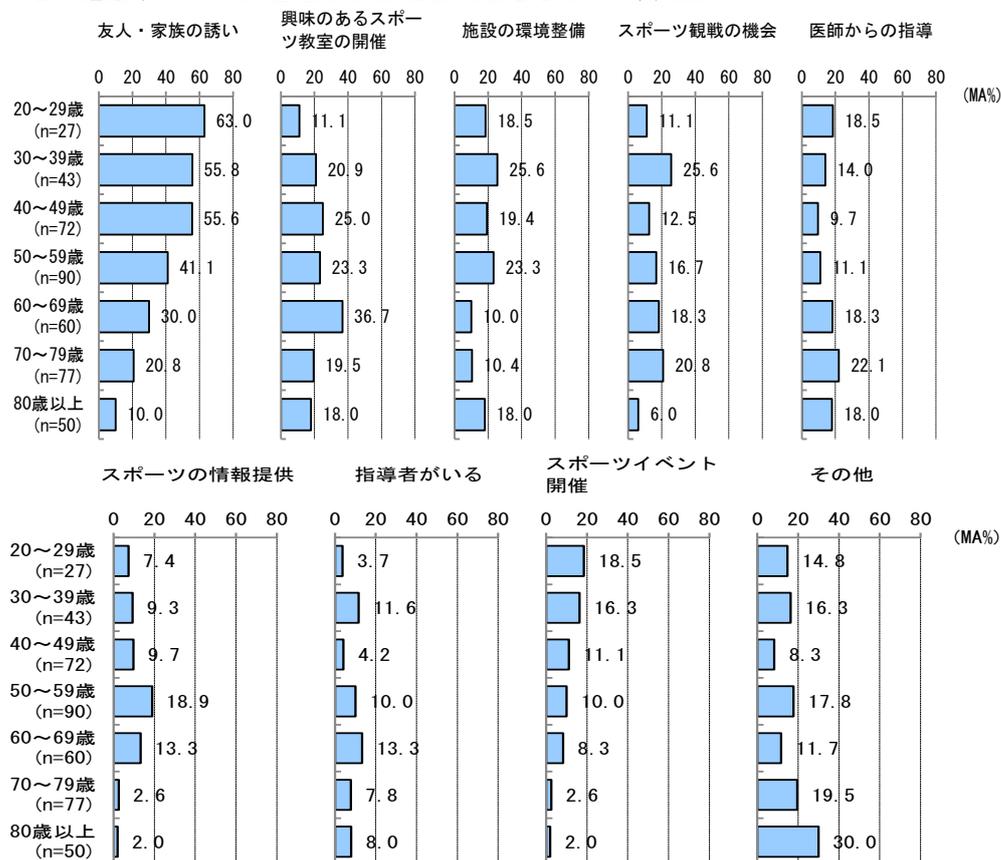
◆図 1-4 スポーツに対する関心度



◆図 1-5 スポーツに対する関心度(年代別)



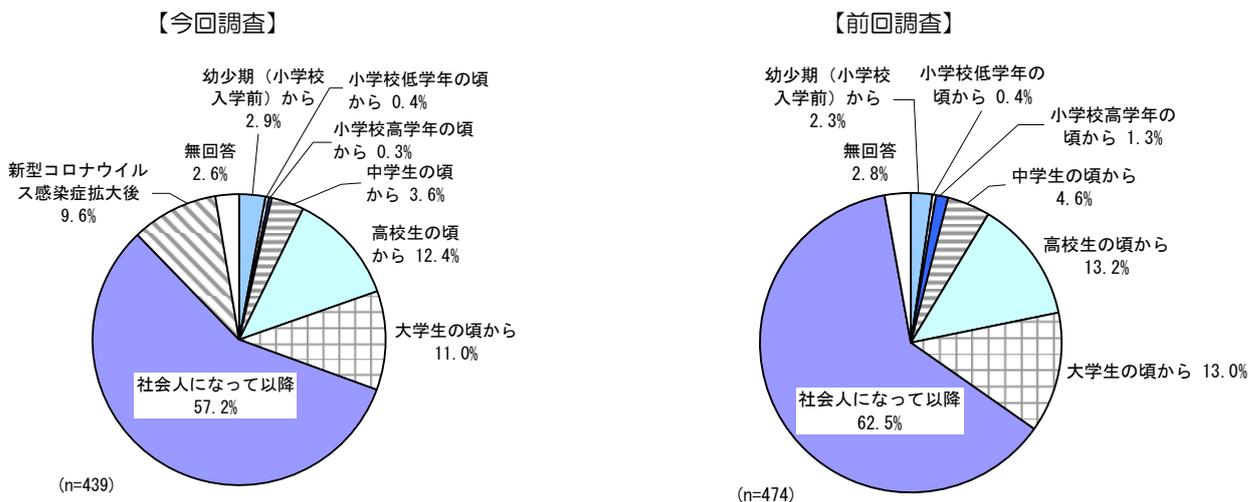
◆図 1-6 運動やスポーツを始めようと思えるきっかけ(年代別)



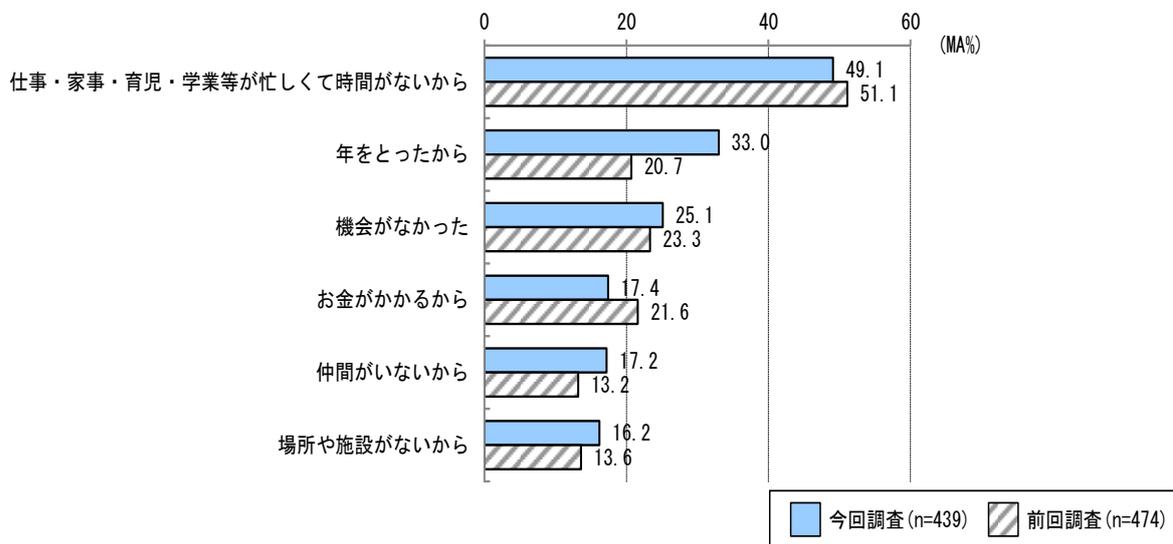
②スポーツに取り組まない理由

運動やスポーツをしなくなった時期は「社会人になって以降」が57.2%となり（図 1-7）、運動やスポーツをしていない理由は、「仕事・家事・育児・学業等が忙しくて時間がないから」49.1%が最も多く（図 1-8）、特に 30・40 歳代では7割台を占めています（図 1-9）。

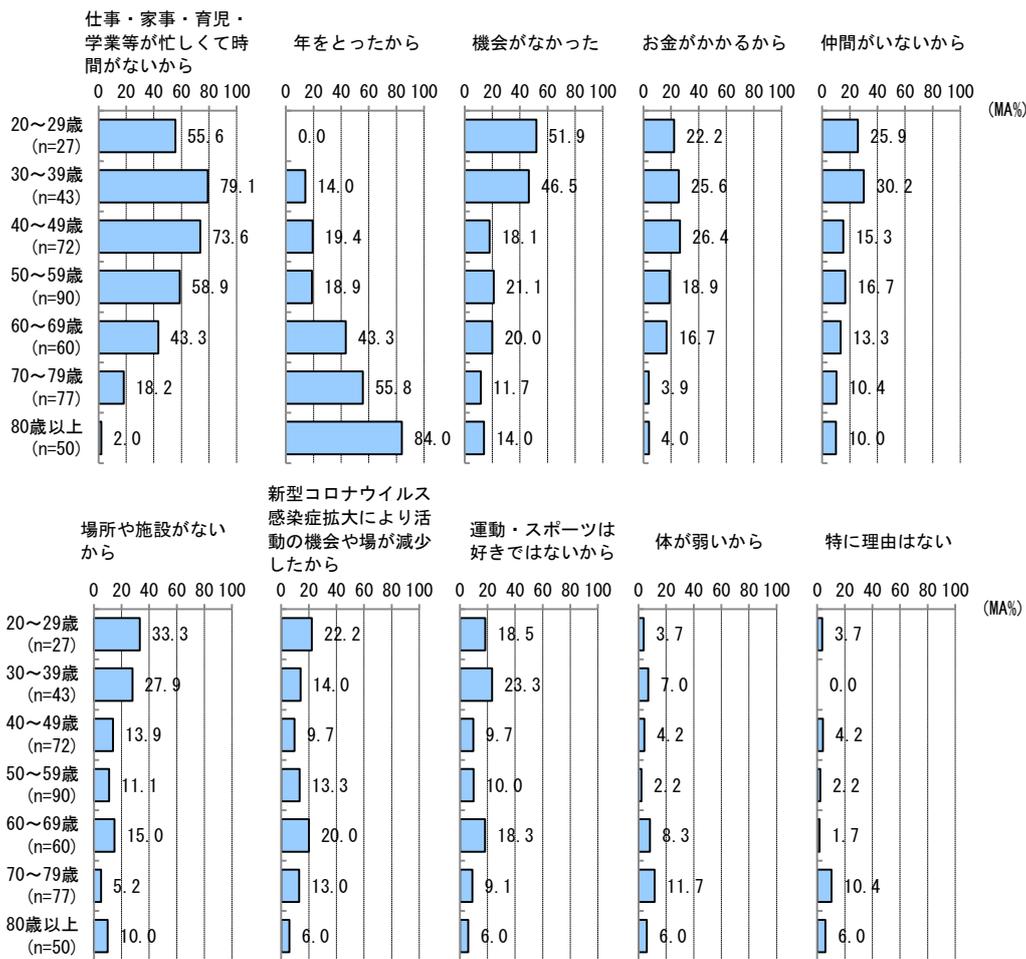
◆図 1-7 運動やスポーツをしなくなった時期



◆図 1-8 運動やスポーツをしていない理由



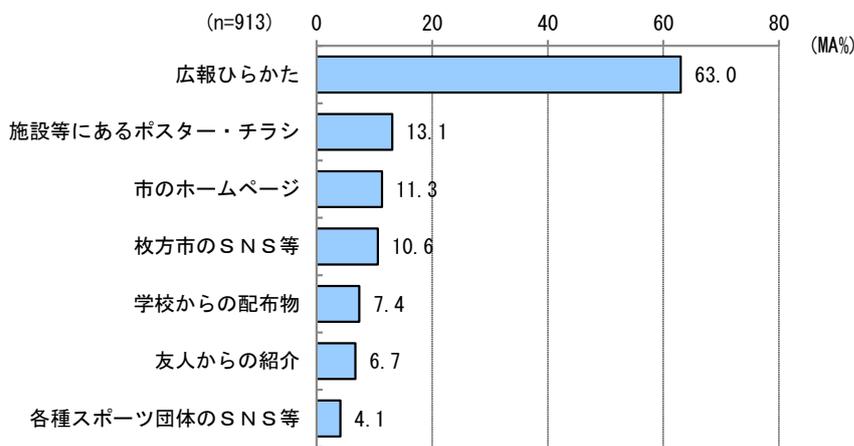
◆図 1-9 運動やスポーツをしていない理由(年代別)



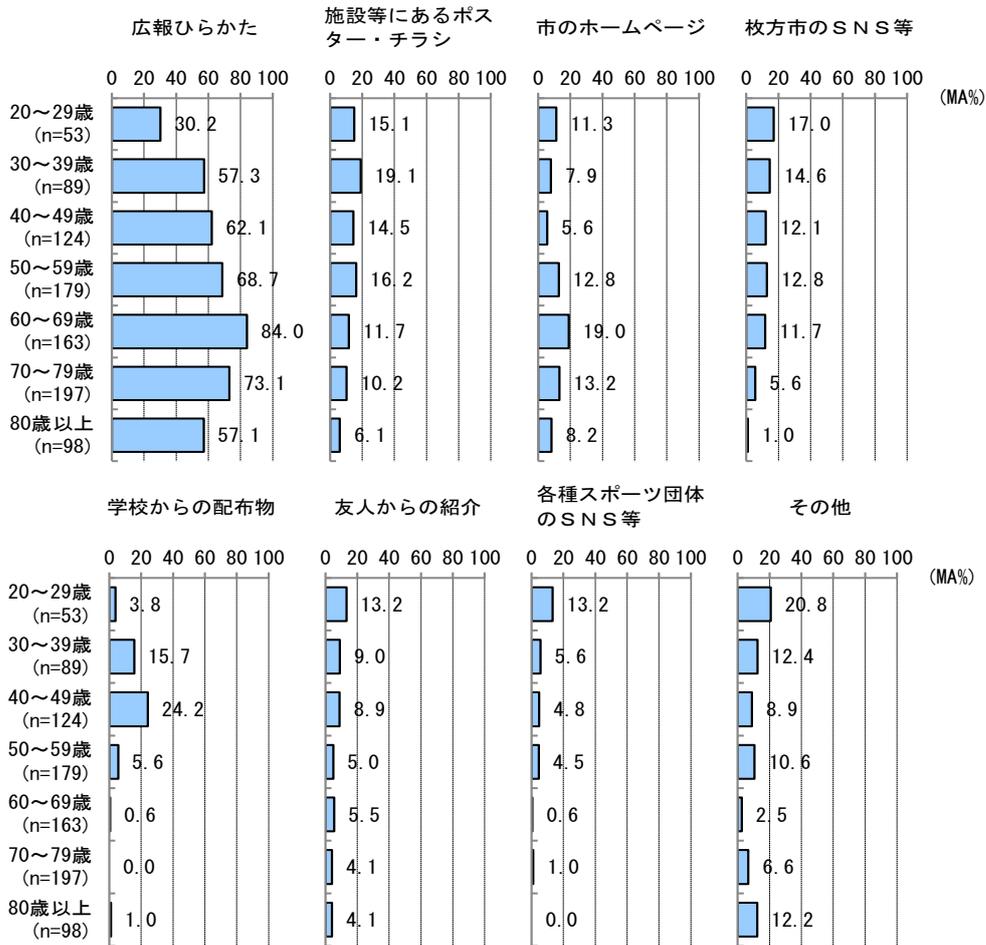
③スポーツに関する情報の入手方法

スポーツ情報の入手先として、最も多いのは、「広報ひらかた」で63.0%を占めており、次いで「施設等にあるポスター・チラシ」が13.1%、「市のホームページ」が11.3%となっています（図 1-10）。また、年代別では20歳代を除くどの世代においても、スポーツ情報の入手先として「広報ひらかた」としているのは、約6割から8割を占める結果となっています（図 1-11）。

◆図 1-10 枚方市のスポーツ情報の入手先



◆図 1-11 枚方市のスポーツ情報の入手先(年代別)



Ⅱ 高齢者のスポーツ活動

高齢者の健康増進、介護予防だけでなく、生きがいや心身の健康づくりを目的に、様々な運動やニュースポーツの参加機会の提供、運動教室・運動の実技指導などを通じ、健康寿命の延伸につなげる取り組みを実施しています。

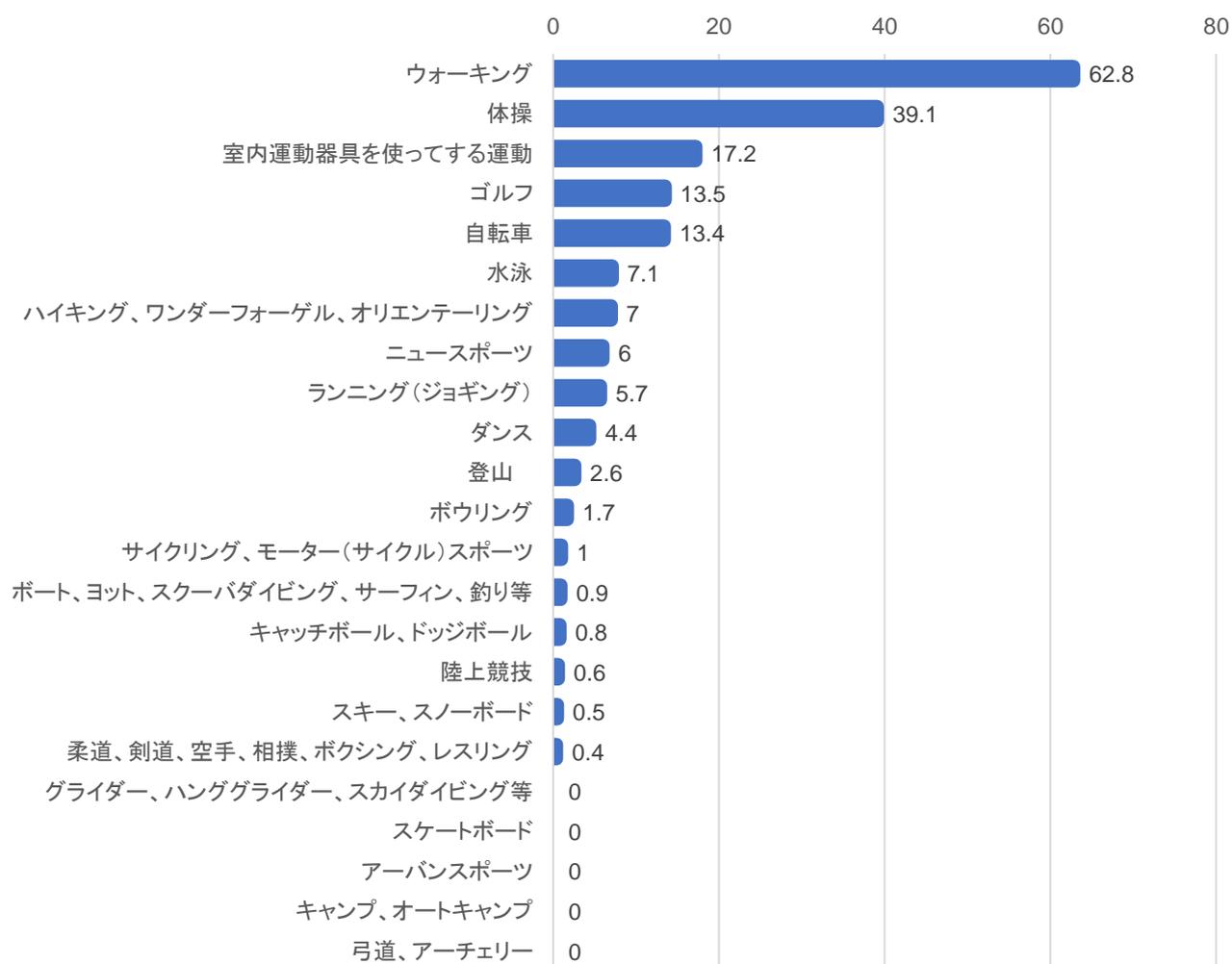
R4市民アンケートの結果では、65歳以上の人が実施しているスポーツは、「ウォーキング」や「体操」、「室内運動器具を使ってする運動」が上位を占めています（図2-1）。



また、新型コロナウイルス感染拡大による運動・スポーツ環境の変化では、「特に変化がない」が40%強となった一方で、「自宅等の屋内で運動・スポーツを行うことが多くなった」が次に高い結果となっています（図2-2）。

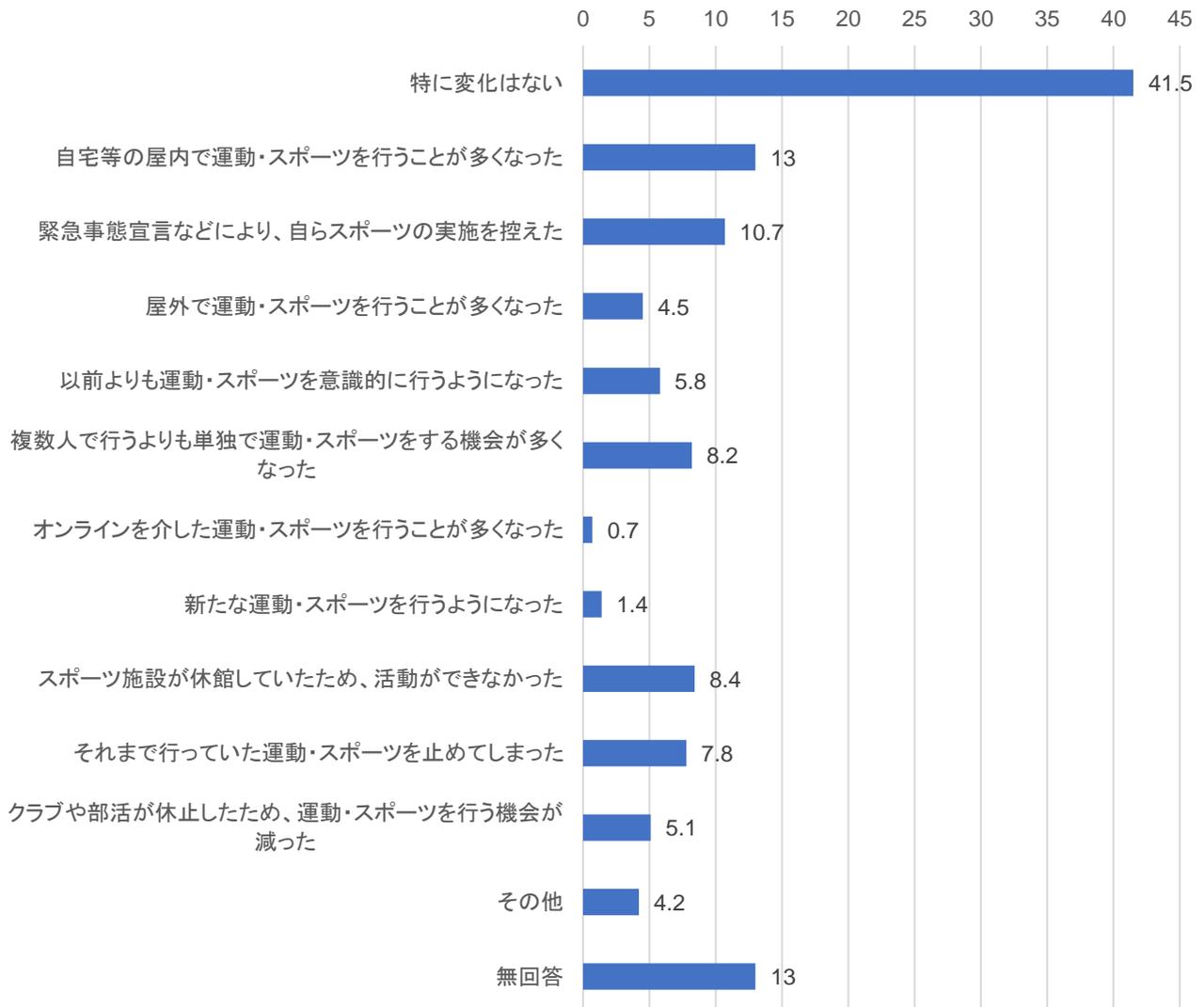
◆図2-1 現在行っている運動やスポーツ(65歳以上)

n=170 (%)



◆図 2-2 新型コロナウイルス感染拡大による運動・スポーツ環境の変化(65 歳以上)

n=322 (%)



Ⅲ 子どものスポーツ活動

① 幼児期におけるスポーツ活動

平成 30 年 4 月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂されました。新たな要領・指針では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として「10 の姿」が示され、その中の 1 つに「健康な心と体」と挙げられています。「健康な心と体」とは、「園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる」とこととされており、自ら体を動かして遊ぶ楽しさを覚えることにより伸び伸びと行動する力を得られることができます。

このように、要領・指針で示された「10 の姿」を意識し、1 人ひとりの子どもの発達に配慮した教育課程、全体的な計画を作成し低年齢から楽しんで取り組める運動遊びなどを通して、運動発達及び運動機能の獲得の援助や体力の向上につなげるための取組を行っています。

また、幼稚園教諭・保育士・保育教諭に対しては、運動遊びに関する実技研修や外部機関が実施する体操等の実技研修の受講を通じて、乳幼児の発達に応じた運動機能が獲得できるよう教育・保育内容の向上に努めています。さらに、各園でもそれぞれの特色を生かした研修を実施し、乳幼児の実態を踏まえた運動指導のあり方について職員同士の共通理解を深めるよう努めるとともに、小学校入学時において円滑な就学がなされるよう、小学校と情報を共有し、体力向上を意識した運動や遊びを行っています。



◆ 就学前児童施設におけるスポーツ活動に関する主な取組

○ 体操・リトミックの実施

○ 自由遊びやクラス活動での運動遊び（体育遊具、鬼ごっこ、ふれあい遊び等）を取り入れた保育・教育の実施

○ リレー（かけっこ）、冬季のマラソン、縄跳び、フープ、ボール遊びや、歩くことを目的とした散歩や園外保育の実施

※コラムイメージ

★ リトミックとは

基礎的な音楽能力を伸ばす教育法で、主には音に合わせて体を動かしたり、表現を楽しんだりする活動をいう。



②小・中学校におけるスポーツ活動

令和4年度運動能力等調査の結果から、本市の小学5年生と中学2年生の種目別の体力測定結果をみると、小学校の児童では、男女とも長座体前屈、50m走において全国平均を上回っています。その他の種目では全国平均を下回った結果となりました。中学校の生徒では、女子の50m走、立ち幅とびにおいて全国平均を上回っています。その他の種目では全国平均を下回った結果となりました。

また、小学校では全8種目のうち、男子は5種目、女子は7種目で大阪府平均を上回り、中学校では全9種目のうち、男子は7種目、女子は4種目で、大阪府平均を上回っています（図3-1）。

◆図3-1 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

小学校【平均値】		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
		(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)
5年男子	R4 枚方市	15.74	18.78	35.01	36.81	44.7	9.37	149.39	20.10
	R4 大阪府	16.02	18.56	33.42	38.20	43.39	9.49	150.04	19.48
	R4 全国	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31
5年女子	R4 枚方市	16.02	17.55	39.90	35.07	34.57	9.61	143.45	12.86
	R4 大阪府	15.92	17.47	37.81	36.33	34.13	9.70	142.89	12.60
	R4 全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17

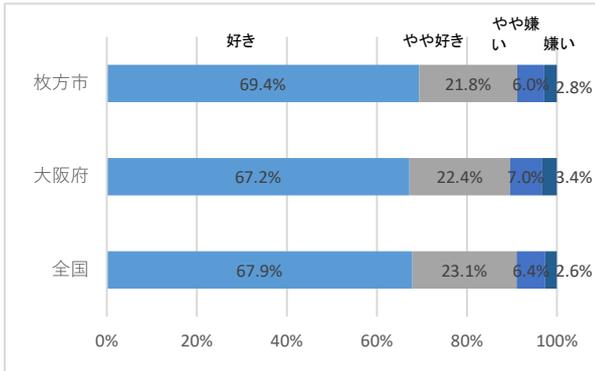
中学校【平均値】		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
		(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)
2年男子	R4 枚方市	28.77	25.60	42.05	50.66	419.08	77.01	8.08	192.79	20.12
	R4 大阪府	27.95	25.53	42.02	50.66	422.56	77.50	8.14	192.36	19.43
	R4 全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28
2年女子	R4 枚方市	22.23	20.08	44.17	45.08	304.98	50.46	8.91	167.19	12.24
	R4 大阪府	22.70	21.38	45.10	45.63	313.47	50.81	9.08	163.10	11.70
	R4 全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.61

(ア)小・中学生の運動に関する考え

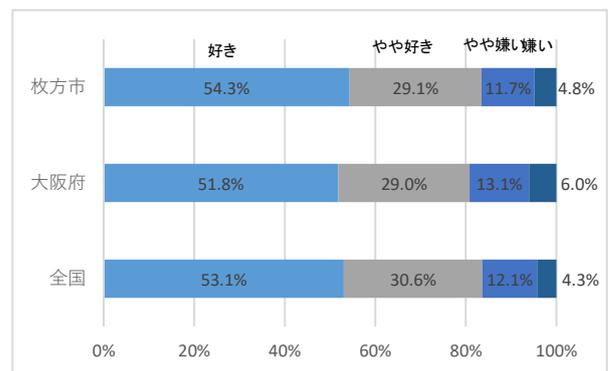
令和4年度運動能力等調査の結果から、「運動が好き」の回答をみると、小学校の児童では、「好き」「やや好き」の割合は、男子はほぼ全国平均並みとなっていますが、女子は全国平均をやや下回っています。中学校の生徒では、「好き」「やや好き」の割合は、女子が全国平均をやや上回り、男子はほぼ全国平均並みとなりました（図3-2）。

◆図3-2 運動が好き

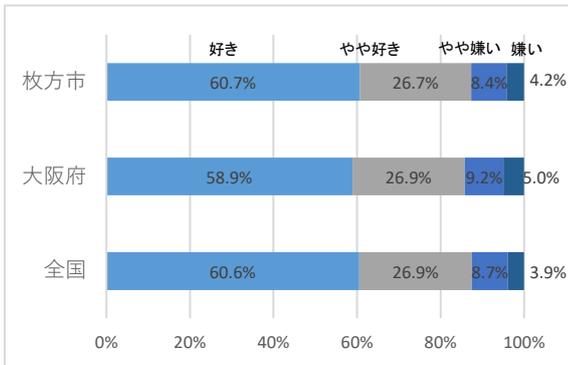
【小学5年生男子】



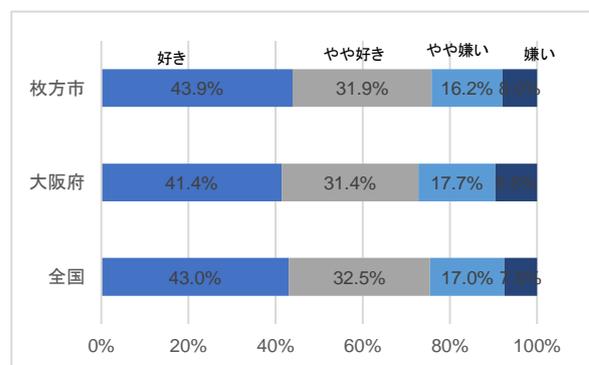
【小学5年生女子】



【中学2年生男子】



【中学2年生女子】

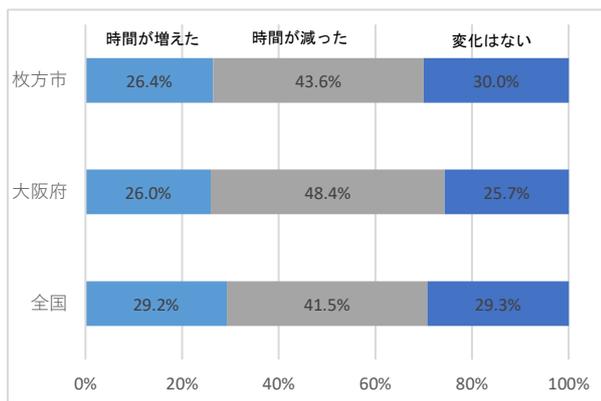


(イ) コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間

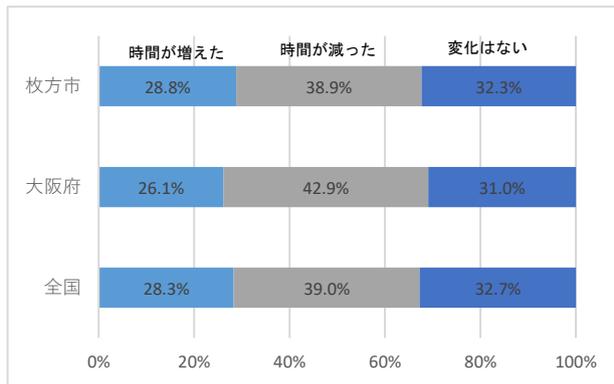
コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間をみると、「時間が減った」と回答した割合は、小学校の児童では、男子が全国平均を上回り、女子はやや下回っています。中学校の生徒では、男子・女子ともに全国平均を上回り、50%以上が運動やスポーツをする時間が減ったと感じています（図3-3）。

◆図3-3 コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間

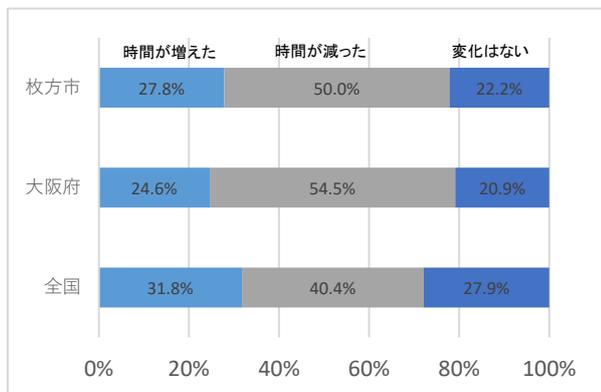
【小学5年生男子】



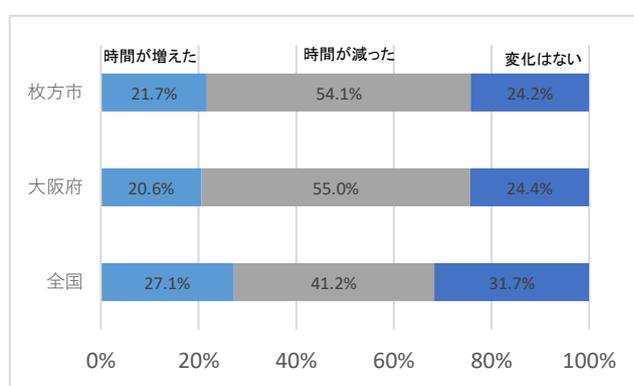
【小学5年生女子】



【中学2年生男子】



【中学2年生女子】



③スポーツ指導者の活動

枚方市スポーツ少年団や公立中学校での部活動指導者を対象に、子どもの指導法・指導技術等における現状と課題を把握することを目的に実施した「令和4年度スポーツ指導者アンケート」（以下、「R4指導者アンケート」という。）の結果の概要は以下のとおりです。

◆R4指導者アンケート調査実施概要

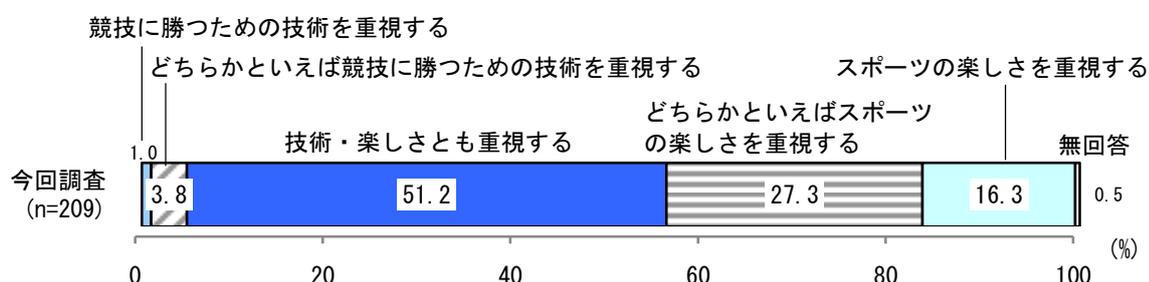
調査対象	枚方市スポーツ少年団指導者及び公立中学校部活動顧問294件
調査方法	郵送調査
調査期間	令和4年9月26日（月）～10月11日（火）
回収率	71.1%（209件）

R4指導者アンケート結果では、指導方法に対する考え方として、「技術・楽しさとも重視する」が51.2%を占め、また「どちらかといえばスポーツの楽しさを重視する」と「スポーツの楽しさを重視する」とが43.6%となっており、本来スポーツが持つ楽しみといった要素を意識して指導を行っている様子がうかがえます（図3-4）。

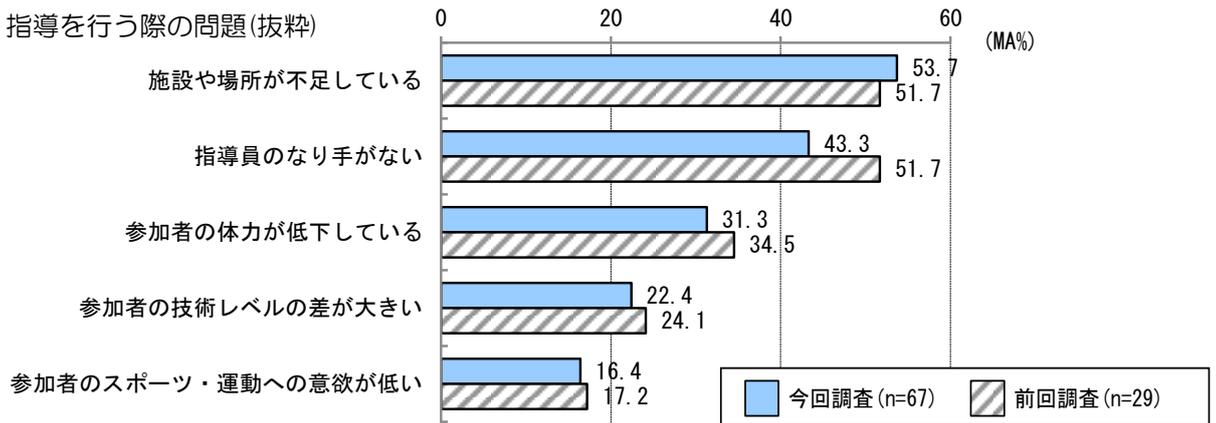
指導にあたっては、「施設や場所が不足している」が53.7%を占め、「指導員のなり手が少ない」が43.3%のほか（図3-5）、指導者自身に関しても32.8%が「体力面に不安がある」や23.9%が「指導の時間が十分に取れない」などの問題を抱えている状況にあります。（図3-6）

また、中学校の部活動顧問の回答では、運動部での指導上の問題として、「校務が忙しくて思うように指導できない」の77.2%や「土日・祝の勤務が多い」で62.5%、「自分の専門的指導力の不足」で43.4%を占めています（図3-7）。

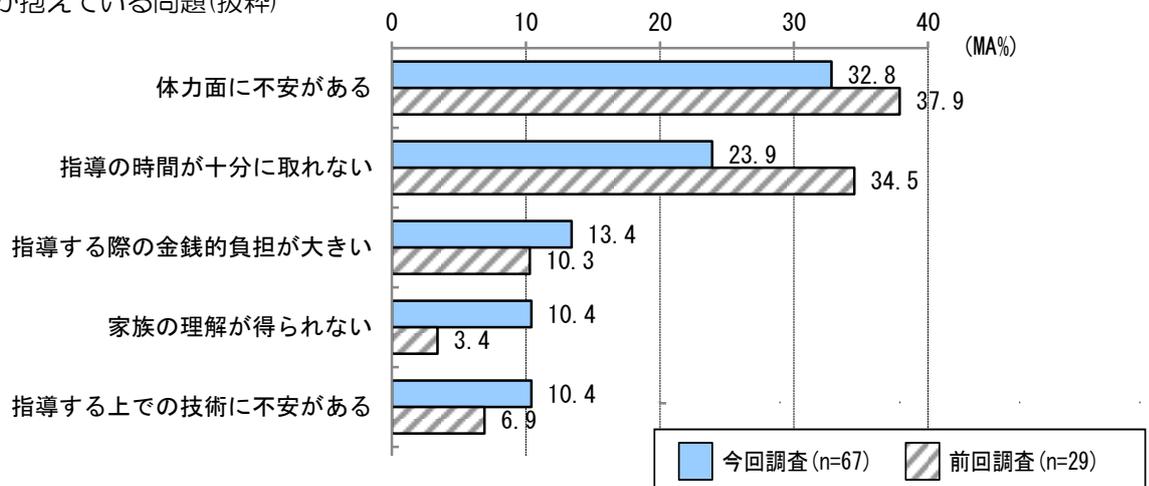
図3-4 指導方法に対する考え方



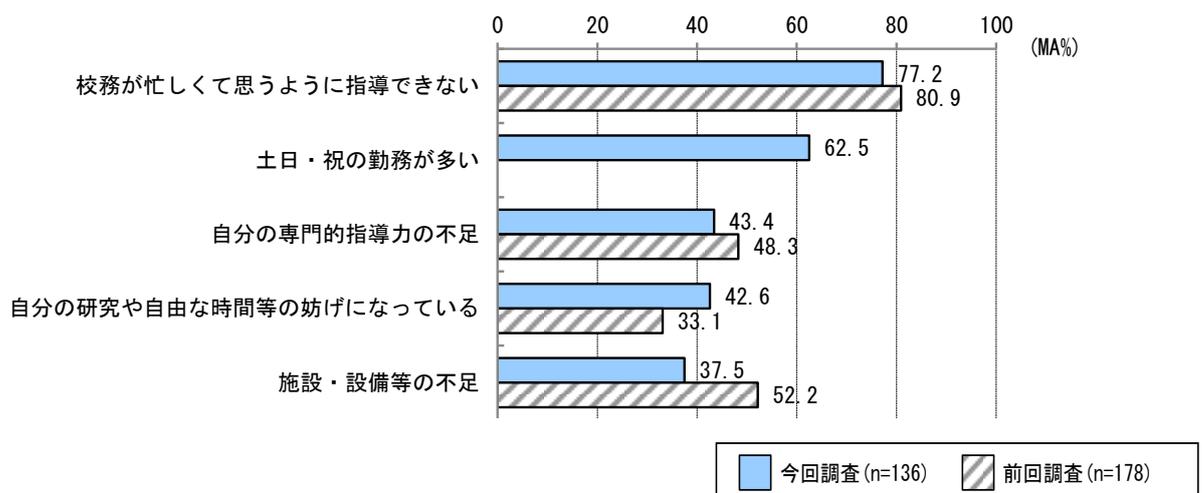
◆図 3-5 指導を行う際の問題(抜粋)



◆図 3-6 自身が抱えている問題(抜粋)



◆図 3-7 運動部で指導する際に問題・課題となっていること(抜粋)



Ⅳ スポーツ環境における多様なニーズ

①地域におけるスポーツ活動

本市では、市内 45 小学校区単位を基本に校区コミュニティ協議会が組織されています。校区コミュニティ協議会では、それぞれの地域の特性に応じて、健康・スポーツ事業を実施しており、近年では校区ごとに「ポッチャ」や「座って玉入れ」などのニュースポーツイベントや「区民体育祭」など校区ごとに開催している例もあります。

また、主にコミュニティから選ばれるスポーツ推進委員は、地域においてスポーツ振興のための事業実施のコーディネートの役割を担い、実技指導等の技術向上に努めるほか、市民の健康増進や体力向上に寄与するなどの幅広い活動を行っています。

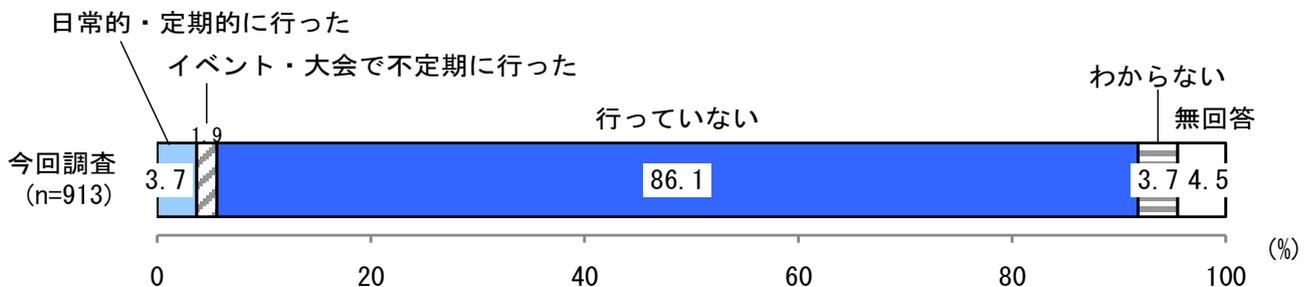


②スポーツボランティア活動

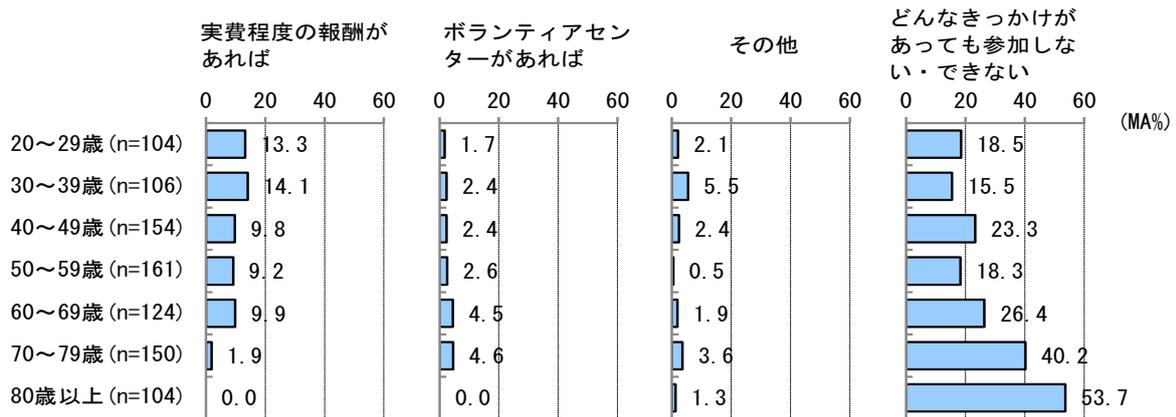
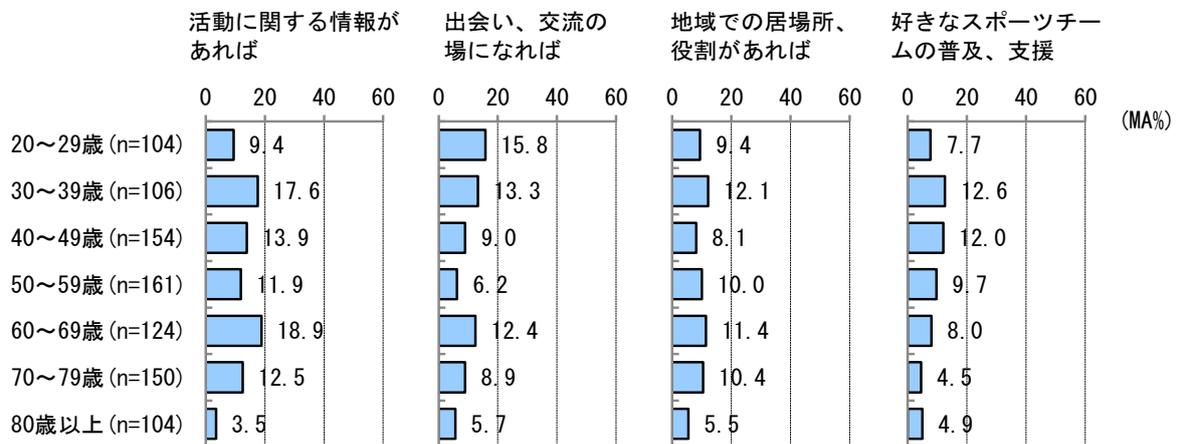
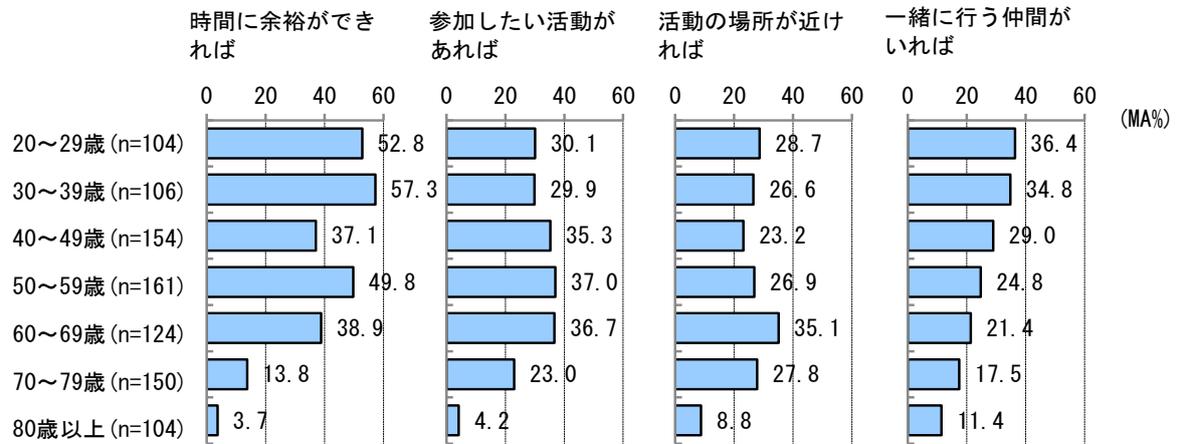
直近の1年間のスポーツボランティア活動について、「行っていない」が86.1%と最も高く（図4-1）、参加したくなるような動機づけとして、「時間に余裕ができれば」の割合は20歳代で52.8%、30歳代で57.3%と高くなっています。また「参加したい活動があれば」は40歳代が35.3%、50歳代が37.0%、60歳代36.7%と高く、20歳代・30歳代では「一緒に行く仲間がいれば」が高くなっています。（図4-2）



◆図4-1 スポーツボランティア活動の参加有無



◆図4-2 スポーツボランティア活動に参加・継続のためのきっかけや動機づけ（年代別）



③障害者スポーツの状況

東京2020パラリンピック競技大会を契機に、障害者スポーツへの理解・関心が高まっています。

本市では、障害者のスポーツ参加機会の確保やスポーツ活動の支援として、プール開放や講習会・交流会などを実施しています。

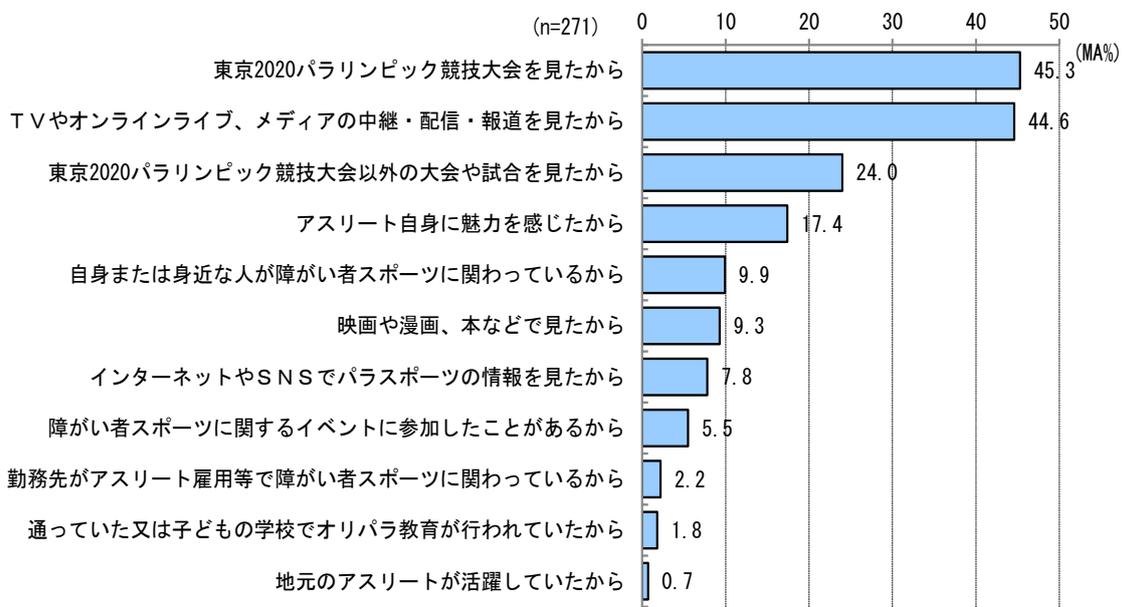
R4市民アンケートでは、障害者スポーツに対し「関心がある」、「やや関心がある」が29.7%に対し、「関心がない」、「あまり関心がない」は49.7%となりました（図4-3）。関心を持ったきっかけは、「東京2020パラリンピック競技大会を見たから」が45.3%となっています（図4-4）。

その一方で、障害者スポーツを体験したことがない人の割合は91.5%となっています（図4-5）。

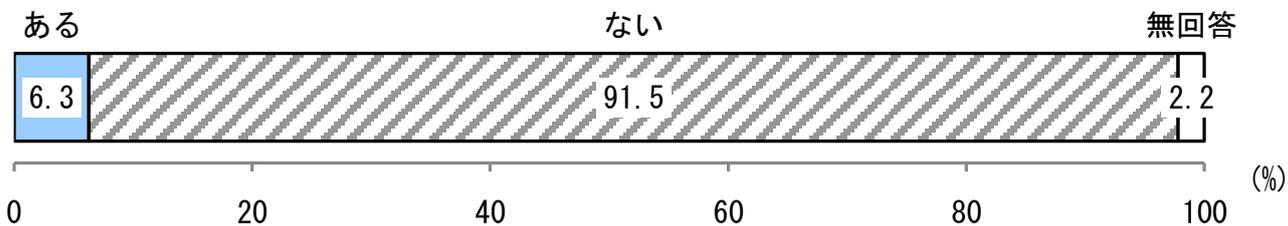
◆図4-3 障害者スポーツへの関心度



◆図4-4 障害者スポーツに関心を持ったきっかけ



◆図 4-5 障害者スポーツの体験の有無



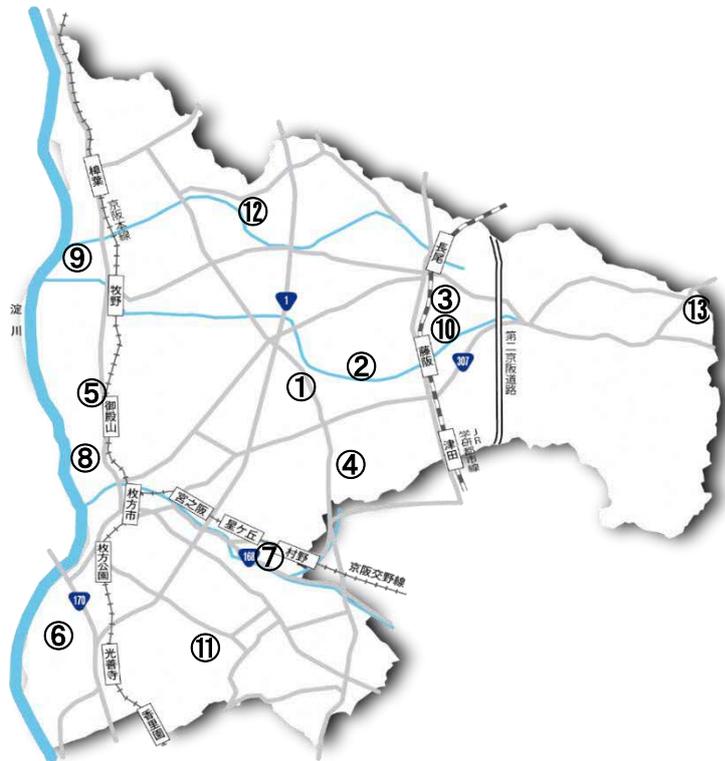
④スポーツ施設の状況

《利用率の推移》

主な施設	R1	R2	R3	R4
総合スポーツセンター KTM河本工業総合体育館(メインアリーナ)	91.4%	94.9%	92.8%	96.8%
総合スポーツセンター たまゆら陸上競技場(個人使用)	95.6%	87.0%	98.3%	98.9%
渚市民体育館(ドームアリーナ)	95.0%	93.8%	90.9%	98.4%
誠信建設工業伊加賀スポーツセンター 体育館(大体育室)	86.4%	93.6%	70.5%	95.2%
誠信建設工業伊加賀スポーツセンター 運動広場	73.7%	64.2%	70.1%	72.1%
サプリ村野スポーツセンター 体育館	88.2%	91.0%	84.5%	82.3%
サプリ村野スポーツセンター 運動広場	71.4%	69.9%	70.9%	67.0%

※感染症拡大により、R1 は数か月間施設の利用中止、R2・R3 は施設の利用中止や利用時間の制限あり

《スポーツ施設マップ》



	施設名	主な施設	住所
①	総合スポーツセンター	KTM 河本工業総合体育館 たまゆら陸上競技場	中宮大池 4-10-1
②		藤阪テニスコート	藤阪南町 1-334-4
③		藤阪東町中央公園テニスコート	藤阪東町 1-5001-8
④		春日テニスコート	春日西町 2-6-2
⑤	渚市民体育館	体育館	渚西 3-26-10
⑥	誠信建設工業伊加賀スポーツセンター	体育館・運動広場	伊加賀西町 53-2
⑦	サブリ村野スポーツセンター	体育館・運動広場	村野西町 5-1
⑧	淀川河川敷グラウンド	運動広場	淀川河川敷磯島地区
⑨			淀川河川敷牧野地区
⑩	王仁公園	運動広場・テニスコート	王仁公園 1-1
⑪	香里ヶ丘中央公園	運動広場	香里ヶ丘 4-17-1
⑫	中の池公園	運動広場	東山 2 丁目
⑬	東部公園	野球場	尊延寺 2987-1

V 競技スポーツやスポーツ関係団体の状況

①競技スポーツの状況

本市では、枚方市春季・秋季総合体育大会、枚方市駅伝競走大会、小学生スポーツカーニバル等を開催しており、全国大会にも多くの市民を輩出しています。

全国規模以上の大会や競技大会において優秀な成績を収めた市民に「市民スポーツ賞」を授与しています。

また、平成29年度と令和3年度に全国大会で優勝を果たした東海大学付属大阪仰星高等学校など、本市にはラグビーの強豪校があり、枚方市ラグビー連盟などと連携し、ラグビーカーニバルを開催するなど、「ラグビーのまちひらかた」として知られています。

本市をホームタウンとする、V.LEAGUE に所属するバレーボールチームのパナソニックパンサーズや、アマチュアリーグ最高峰のJFL に所属するサッカーチームのFCティアモ枚方との連携事業として、ホーム戦への市民招待、小学校での出前教室等を実施し、地域に貢献していただいています。



○総合体育大会

	R1	R2	R3	R4
開催数	4	1	2	4
参加者数	18,612	4,257	9,159	11,887

○市民スポーツ賞

	R1	R2	R3	R4
授与回数	3	4	17	10

○市民応援デー（回数）

	R1	R2	R3	R4
FCティアモ枚方	-	-	2	4
パナソニックパンサーズ	1	3	1	3

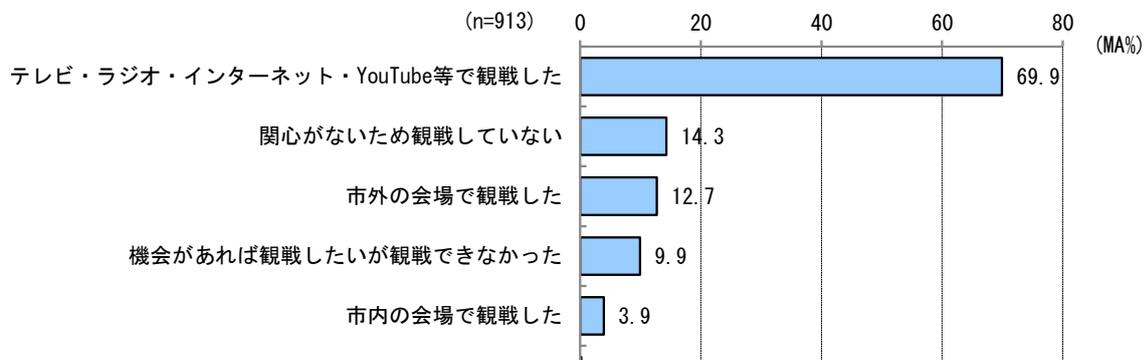
※FCティアモ枚方が令和2年度にJFLに昇格し、令和3年度より市民応援デーを開催

②スポーツ観戦の状況

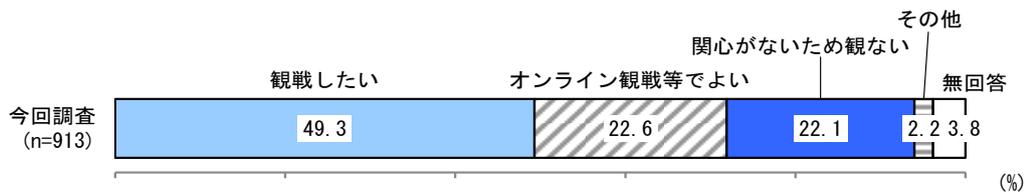
直近、1年間のスポーツ観戦状況は、「テレビ・ラジオ・インターネット・YouTube等で観戦した」が69.9%となりました（図4-6）。一方で、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、開催会場や間近で「観戦したい」との回答が49.3%と、観戦希望が高いことが分かります（図4-7）。

本市をホームタウンとする FC ティアモ枚方、パナソニックパンサーズについては、「両チームともに試合をともに観戦したことがない」が84.3%と高い結果となりました（図4-8）。ホームタウンチームの試合を観戦したくなる条件として、「市民観戦無料招待デーがあること」が47.9%や「交通アクセスの良さ」が44.6%、「チケットの割引制度の充実」が33.7%、「観戦する仲間がいること」が29.4%となりました（図4-9）。

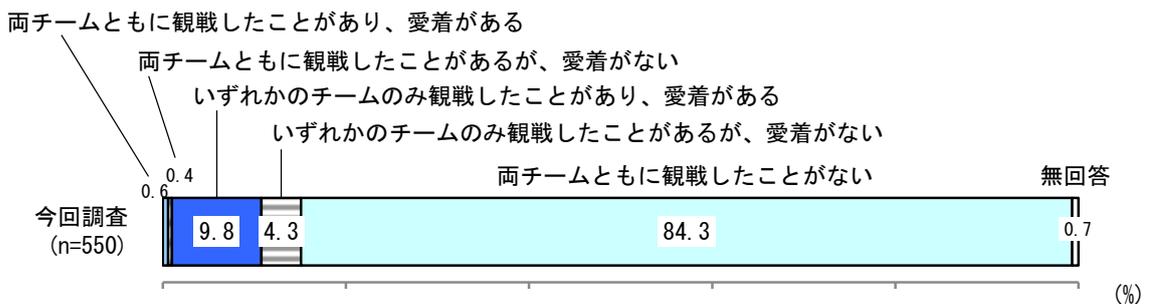
◆図4-6 この1年間のスポーツ観戦状況



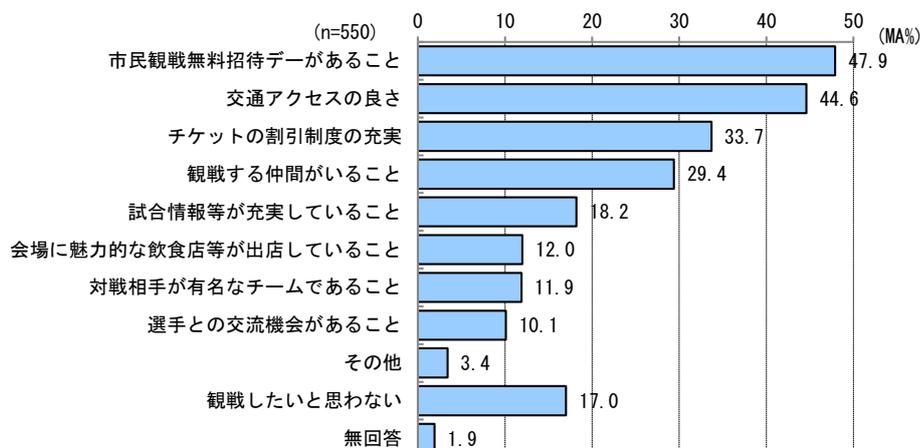
◆図4-7 新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後のプロスポーツ等の直接観戦意向



◆図4-8 FCティアモ枚方、パナソニックパンサーズの観戦経験及び愛着度



◆図4-9 ホームタウンチームの試合を観戦したくなる条件



③スポーツ関係団体の状況

(ア)枚方市スポーツ協会の状況

公益財団法人枚方市スポーツ協会(以下、「スポーツ協会」という。)は、「スポーツの普及と競技スポーツの振興、市民の健康づくりに寄与すること」を目的に昭和22年に設立され、その傘下に27の競技団体(以下、「加盟団体」という。)が加盟し、「健康スポーツ」、「生涯スポーツ」(障害の有無、性別に関わらず、子ども、高齢者など全ての世代を対象とした生涯にわたって楽しむことができるスポーツや運動のこと)、「競技スポーツ」の全てのスポーツを推進しています。

主な事業としては、加盟団体と連携し、総合体育大会や各種スポーツ大会などの運営や様々な世代を対象としたスポーツ教室の実施など、本市のスポーツ振興及び推進の上で重要な役割を担っています。

また、子どもから高齢者まで自由に様々なスポーツ種目を楽しむことができる総合型地域スポーツクラブの「ひらかたキングフィッシャーズスポーツクラブ」を設立、運営しています。そのほか、スポーツサポーターズバンクを設立し、スポーツ指導者やボランティアの育成等を行い、スポーツ情報の提供、スポーツ団体への支援、及び医療機関と連携した健康スポーツ事業や介護予防事業等を企画実施するなど、本市のスポーツ推進のためのパートナーとして不可欠な存在となっています。引き続き、本市とパートナーシップを強化し、様々な事業を推進していくことが必要です。

◆スポーツ協会の主な実施事業の概要

事業名		概要
市民スポーツ普及啓発事業	スポーツ大会事業	<ul style="list-style-type: none"> ・春季秋季総合体育大会の運営、北河内地区総合体育大会等への選手・役員等の派遣 ・「新春走ろうかい」（淀川河川敷での新春恒例行事）、「ひらかた市民オリンピック」、「わくわくパークフェスタ」、「ひらかた街ぶらロゲイニング」等の開催（主催） ・友好都市とのスポーツ交流事業 など
	スポーツ啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室事業（様々な世代を対象とした各種スポーツ教室の実施。楽 10 体操、健康ウォーキング(健康医療都市ひらかたコンソシアムとの連携事業)等)の実施 ・トップアスリートとの交流事業の実施 ・健康スポーツ事業（介護予防事業、健康維持・増進事業、企業が行う従業員の健康づくり（健康経営）の普及・支援事業、eスポーツ等）の実施 ・スポーツサポーターズバンク事業（インストラクター・ボランティアの養成講座、フォローアップ研修、地域へのインストラクターの派遣、介護予防指導者講習会の開催）の実施 ・スポーツ振興特別事業（役職員研修会、加盟団体によるスポーツ教室や審判講習会、指導者講習会）の実施 など
	スポーツ施設活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の施設開放及び府立高校開放に伴う、企業・学校等との調整、団体登録、利用申し込み受付の実施 など
総合型地域スポーツクラブの運営・支援事業		<ul style="list-style-type: none"> ・定期活動として、11 種目（フットサル、ソフトテニス、ショートテニス、バレーボール、テニス、バドミントン、卓球、バスケットボール、軟式野球、ソフトバレーボール、基礎代謝向上組）について1週間に1回程度実施 ・スクール事業として、幼児からシニアを対象に8事業を実施 ・令和5年3月31日現在の会員数は484名。レギュラー区分473名（うち中学生以下277名）、ファミリー区分11名



(イ)枚方市スポーツ少年団・スポーツ協会加盟団体の状況

枚方市スポーツ少年団は昭和37年に日本体育協会が創設した日本最大の青少年スポーツ少年団で、スポーツを通じて青少年の健全育成に重点を置いた活動を展開しています。スポーツ少年団は、野球、サッカー、バレーボール、空手道、日本拳法、少林寺拳法の部会が活発に活動しています。登録団体数は、令和5年1月1日現在、45団体で団員数は857人となっています

また、スポーツ協会の傘下にある加盟団体は、令和5年1月1日現在、27団体となっており、各競技にかかる大会等を開催しています。

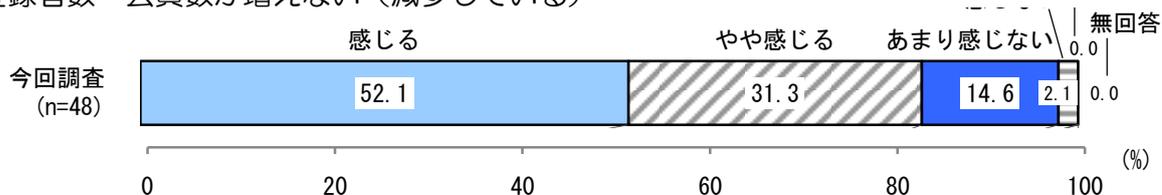
これら関係団体を対象としたアンケート調査では、少子・高齢化を背景に、登録者数・会員数が増えない（減少している）と「感じる」、「やや感じる」が83.4%、団体運営を行う者が高齢化していると「感じる」、「やや感じる」が75.0%、団体の認知度が上がらないと「感じる」、「やや感じる」が48.0%となるなど、運営上の問題を抱えています（図5-1）。

◆関係団体アンケート調査実施概要

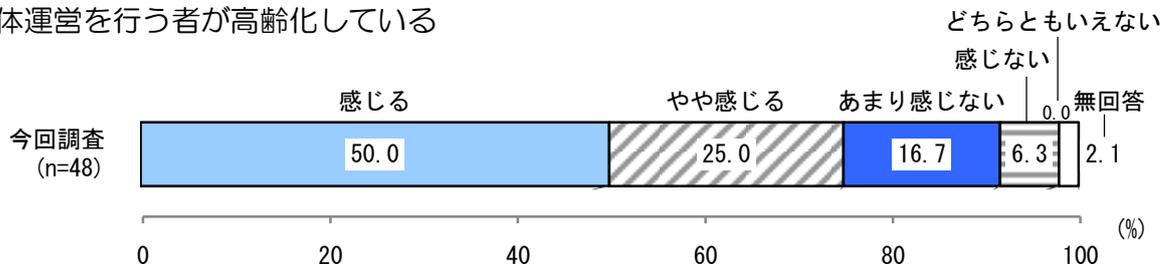
調査対象	スポーツ少年団及び (公財)枚方市スポーツ協会加盟団体 計72団体
調査方法	郵送調査等
調査期間	令和4年9月26日(月)～10月11日(火)
回収率	66.7%(48件)

◆図5-1 活動を通して感じていること(団体の運営について)

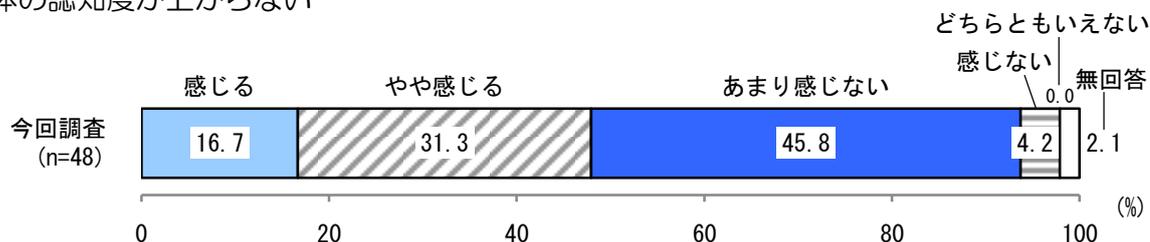
○登録者数・会員数が増えない(減少している)



○団体運営を行う者が高齢化している



○団体の認知度が上がらない



(ウ)枚方市スポーツ推進委員の状況

枚方市スポーツ推進委員は、令和5年4月1日現在の委員数48名、校区コミュニティ協議会(地域)から推薦を受けた方を中心に、スポーツ関係団体からの推薦や学校教職員などで構成されます。

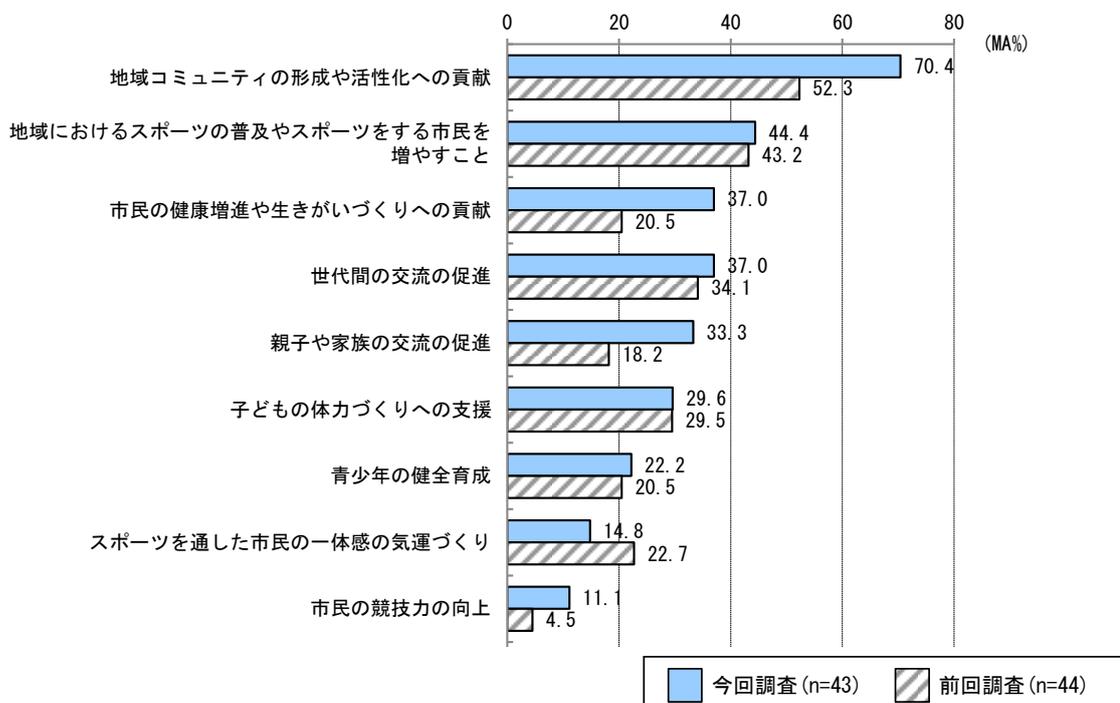
スポーツ推進委員を対象としたアンケート調査では、推進委員としてのやりがいについて、「地域コミュニティの形成や活性化への貢献」が70.4%となったことをはじめ、「地域におけるスポーツの普及やスポーツをする市民を増やすこと」が44.4%や「市民の健康増進や生きがいづくりへの貢献」が37.0%などとなっています(図5-2)。

一方で、推進委員としての悩みや課題としては、「スポーツ推進委員のなり手がいない」が59.3%となり(図5-3)、さらに推進委員としての活動の継続意向を見ると、「適当な後任者がいれば辞めたい」が40.7%と最も多くなっており、スポーツ推進委員のなり手がいないことが課題となっています(図5-4)。

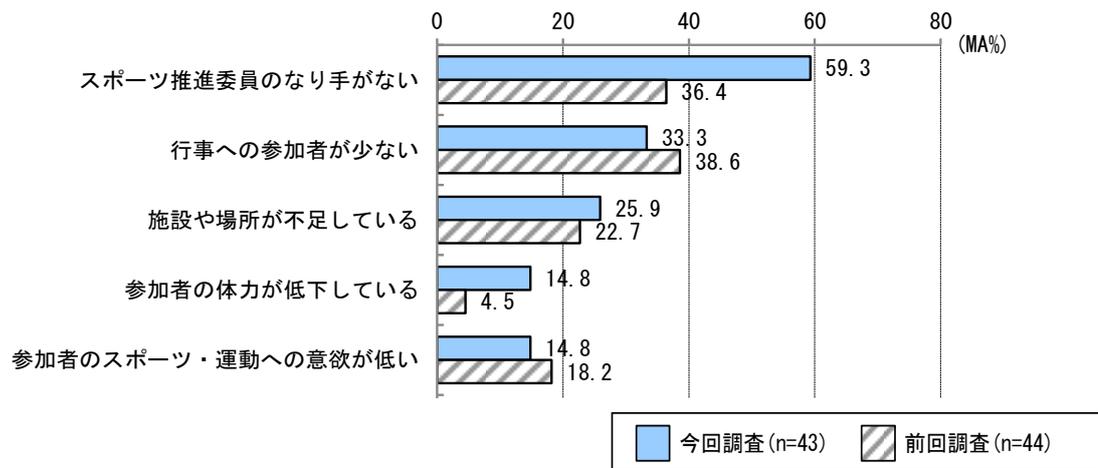
◆R4 スポーツ推進委員アンケート調査実施概要

調査対象	スポーツ推進委員 47件
調査方法	郵送調査
調査期間	令和4年9月26日(月)～10月11日(火)
回収率	91.5%(43件)

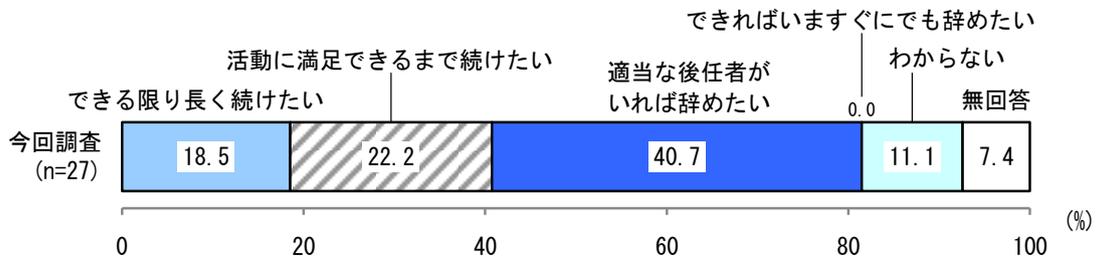
◆図5-2 スポーツ推進委員としてのやりがい(抜粋)



◆図5-3 スポーツ推進委員としての悩みや課題(抜粋)



◆図5-4 スポーツ推進委員としての活動の継続意向



【現行計画からの変更点】

・中間評価報告書による新たな取組課題を追記

2. 今後の取組課題

国・府の動向並びに、これまで示してきた市民のスポーツ活動に関する実態や意識、市・関係団体のスポーツ推進のための施策等の現状を踏まえた今後取り組むべき課題については、次のとおりです。

(1) 健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進

- すべての市民が気軽にスポーツに取り組めるよう、ライフスタイルや年齢などのライフステージに応じたスポーツ機会の提供
- 健康志向の高まりなどから、ウォーキングや軽い体操等一人のできる運動や従来の「体育」の概念から「楽しむスポーツ」、さらには「遊びの要素を取り入れたアクティビティ」をスポーツとして捉えた、アーバンスポーツ等の多様化するニーズへの対応
- 日常生活でスポーツを行う機会が少ない勤労世代や子育て世代をターゲットに健康増進を図るためのスポーツに参加しやすい条件整備
- 生きがいづくりや心身の健康づくりを目的とした、健康スポーツ、介護予防活動の充実
- 情報化・IT化が進展する中で、スポーツにおいても既存の手法等にとらわれず、VRやAR等のデジタル技術を活用した新たなスポーツ実施機会の創出
- スポーツ指導者による暴力やハラスメント等の根絶やスポーツ事故の防止等、安全・安心に取り組めるスポーツ環境づくり

(2) 子どものスポーツ活動の充実

- 生涯を通じて運動やスポーツを継続することができるよう、幼児期から身近な場所で様々なスポーツに触れる機会の充実
- 子どものスポーツへの関心、体力・運動能力の向上をめざすスポーツ活動や体育授業の充実
- 子どもがスポーツに関する正しい知識や技術等を習得できる環境の整備と、そのためのスポーツ指導者の育成
- 休日の学校部活動の段階的な地域移行に向けた仕組みづくり

(3) 多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実

- 各ライフステージにおけるニーズや、地域の現状・特性に合わせたスポーツ活動の充実とスポーツをきっかけとした地域コミュニティの充実
- 個人利用や団体利用など、個々のニーズに応じスポーツを継続して行える環境づくり
- 障害者が多様なスポーツに出会える場の提供のほか、障害の種別や程度に応じて安心して気軽に親しめる機会の充実
- 年齢・性別・障害の有無に関係なく交流できる場づくりや障害者への理解促進
- 新たなスポーツ活動の促進や、誰でも使いやすい施設機能や設備の充実、既存スポーツ施設の利便性の向上
- 学校体育施設をはじめ既存のスポーツ施設の有効利用と効率的な運用
- 身近にスポーツや健康づくりができるよう、公園や河川敷機能の充実

(4) スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化

- 団体の競技水準の向上を図るための支援体制の充実
- トップアスリートと市民が交流できる機会の充実
- ホームタウンのスポーツチームを通じた地域の活性化
- 観る人に感動を与え、スポーツの魅力を感じるにより、スポーツへの関心を高めるため、多くの市民へのスポーツ観戦機会の提供